

第3回FD研修会報告書

Faculty
Development

2008.3

FD委員会

金沢学院短期大学

目次

開催にあたって	FD委員長 岡島 厚	・・・1
・ 第2回FD研修会のまとめ	(岡島 厚)	・・・2 - 10
・ 教員の授業改善活動と後期学生アンケートのまとめ	(松井 良雄)	・・・11 - 23
・ 金沢学院東高等学校公開授業参加報告	(小林 淳一)	・・・24 - 31
・ 金沢学院東高等学校の生徒指導 - 学習、生活、進路などについて - (東高校教頭 島崎 芳夫 東高校教頭 木谷 辰夫)		・・・32 - 38
・ 第3回FD研修会当日アンケートのまとめ	(松井 良雄)	・・・39 - 41
総括	FD委員会 小林 淳一	・・・42 - 43

第 3 回短大 F D 研修会

開催にあたって

短大 F D 研修会も回を重ねまして今回で第 3 回目です。やっと軌道に乗ってきたように思います。本研修会のメニューは、まず、(1)前回の研修会で、初めてポストイット形式で 4 つのグループに分かれて、グループ討論会を行いました。そのまとめを F D 部会で行いました。そのまとめに基づいて、平成 20 年度の短大における F D 活動の方策の提言を皆さんにお計り致します。

引き続き、(2) 授業評価アンケートに対する教員の改善策の概要について、松井 F D 委員に話していただきます。つぎに、(3) 昨年 11 月 28 日の金沢学院東高等学校公開授業に F D 委員を中心に参加しました。その概要を、小林 F D 委員に報告していただきます。

そして、今回(4) 同じ教育理念「創造」を掲げている金沢学院東高等学校の教頭先生の島崎芳夫先生、木谷辰夫先生をお招きいたしました。両先生にはご多忙中にもかかわらず、研修会ご出席いただき、特に、生徒指導について、その概要や成果などをお話していただきます。その後、研修会の議論に加わっていただき、学生の教育指導について高校と短大の間のより密な情報交換の場にしたいと考えます。

本学の教育方法改善のために皆さん共に頑張りましょう。



短大 F D 委員会
委員長 岡島 厚

・ 第 2 回 F D 研修会のまとめ

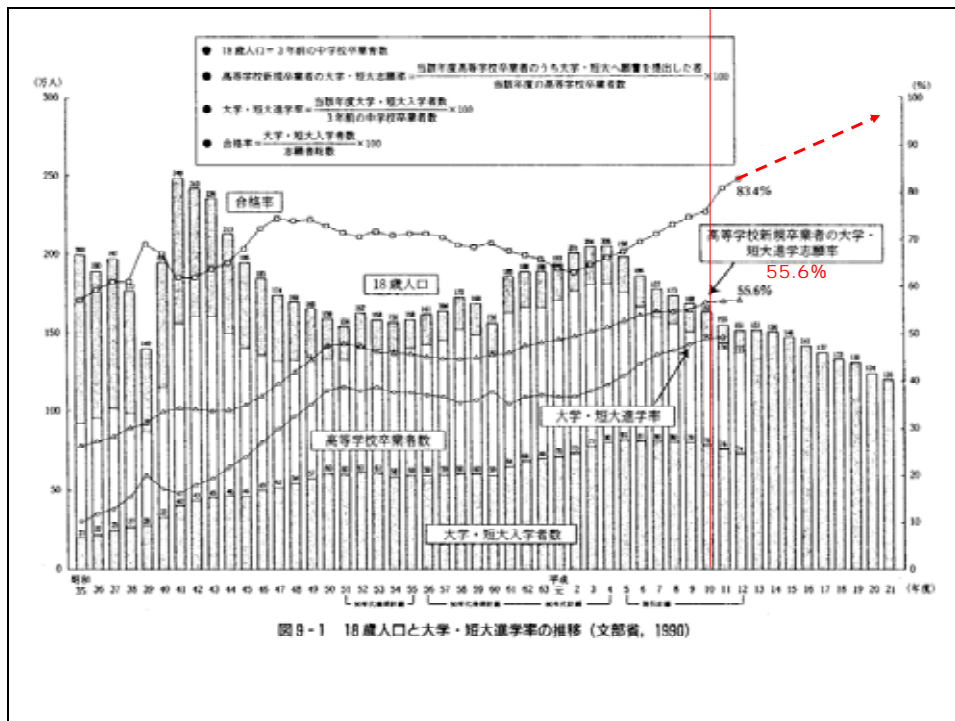
岡島 厚

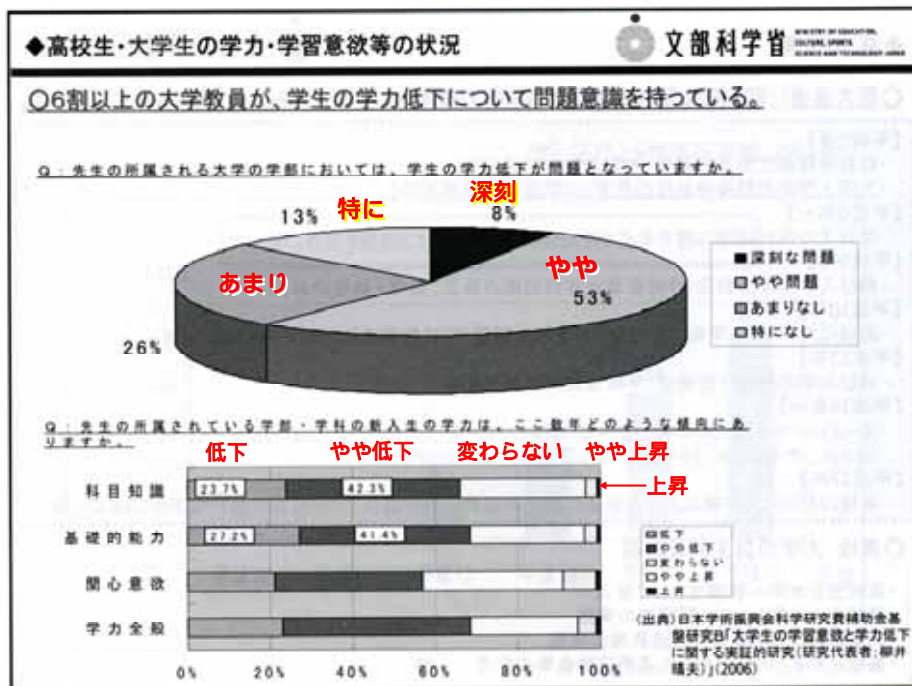
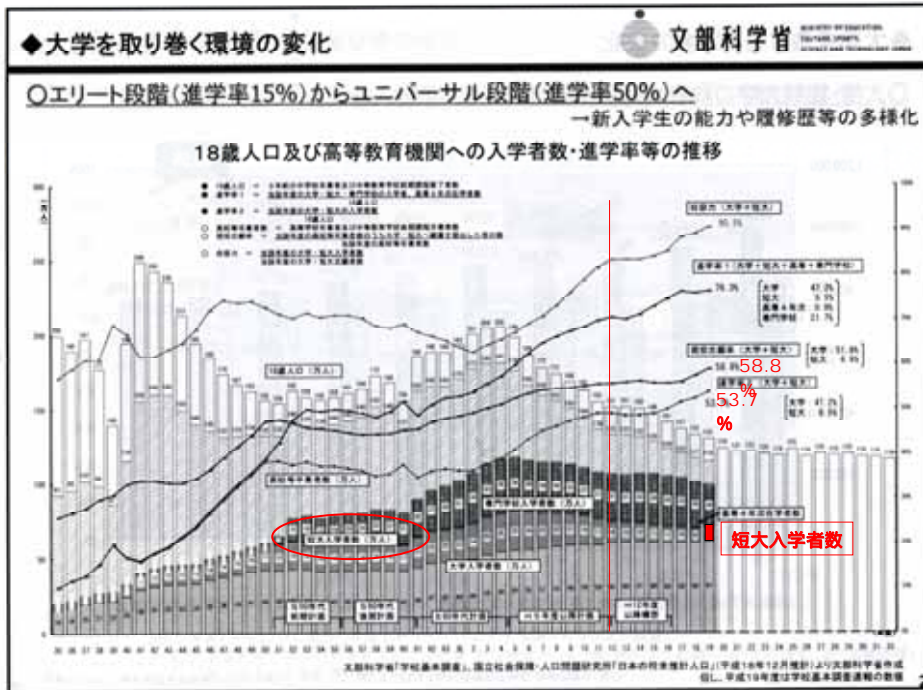


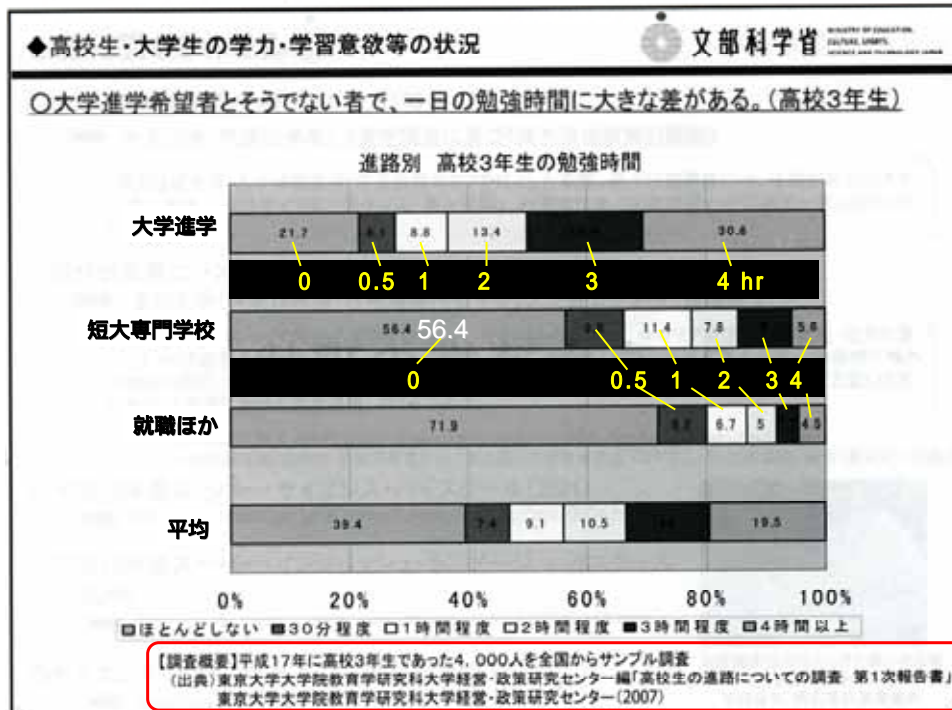
1. 第二回FD研修会のまとめ

岡島 厚

Kanazawa Gakuin College

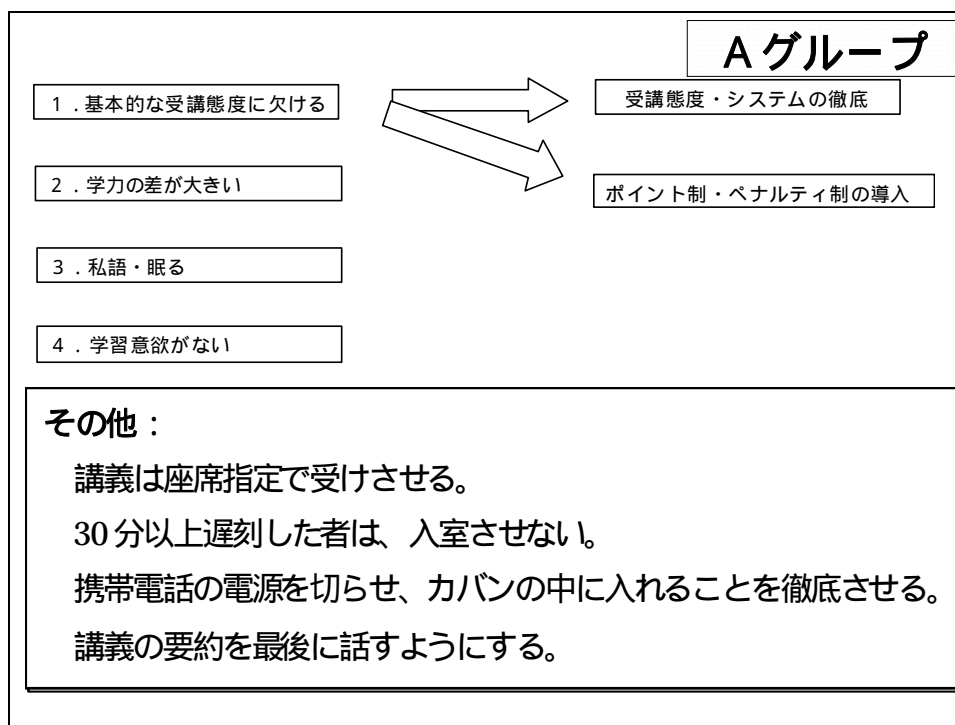






「 . 課題: 本学の授業方法を
いかに改善するか」
“ポストイット”を用いたグループ討論
のまとめ

全教職員



Aグループ

2つの改善策が提案された。

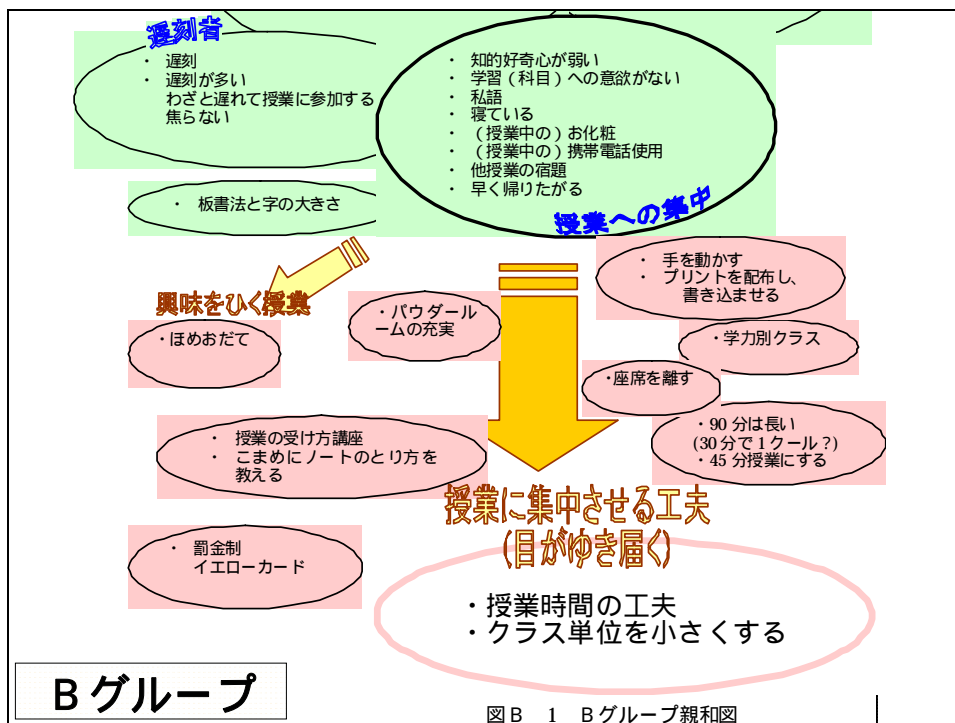
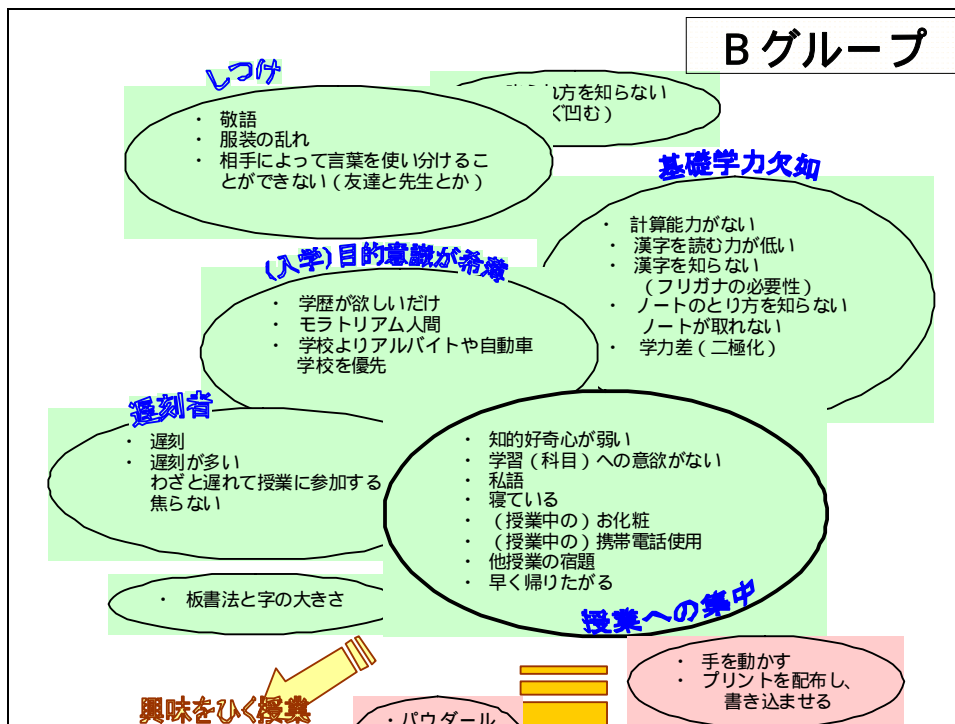
1. 受講態度と単位認定のためのシステムについての学生への徹底熟知。

入学時等の早い時期に指導し、徹底させる機会を設ける。

2. ポイント制とペナルティ制を導入。

- ・ **ポイント制**：授業に対し意欲的に参加した学生に、報酬（ポイント）を与え、成績評価に反映させる方法。
- ・ **ペナルティ制**：授業に悪影響を及ぼすような言動に対し、罰（減点する）を与え、成績評価に反映させていく方法。

いずれにせよ、授業形態や内容によっては、実施が困難な場合もあるが、ポイント制・ペナルティ制を取り入れる際には、授業の始めにシステムの説明を行い、学生に理解させることが大切である。そして、どちらの場合も、学生が納得できる一定の客観的基準を提示しておくことが重要である。



図B 1 Bグループ親和図

Bグループ

2つの改善策が提案された。

1. 授業時間の見直し

本学学生には90分間の集中は難しいと思われるため、授業を30分、あるいは45分クールで組み立て、作業メニューを組み込む。

2. 受講人数の是正

受講人数が多いクラスは全体に目が届きにくく問題行動が目立つ傾向にある。

教員不足の現状では困難かも知れないが、クラス単位を30名前後が理想である。

Cグループ

「礼節」改善に向けた具体的行動計画の提案

1. フレッシュマンキャンプの活用と拡大化

・1年生と2年生の合同縦割り合宿の提案。

2. 体験合宿の実施

・野田山・大乘寺における体験合宿の実施
・具体的実施のための「ワーキンググループ」の設置

3. 高校と連携した「礼節教育」の実施

例えば、同じ教育理念を共有する東高校と連携した「礼節教育」の具体的な行動計画の立案。

Dグループ

課題：「行儀向上」に関する対策を検討した。その結果は、下記の通りである。

1. マナー・チェックリストの作成。

全ての教職員が、共通認識を持って学生が行儀向上を図るために、本学独自のマナー・チェックリストを作成する。チェックに関しては、ゼロトレランス・ポリシーに基づき徹底を図る(チェック内容と違反学生への罰則を明確にする)。また、授業中だけではなく、実習実施前に特別時間を設けて実施したり、日々定期的実施するなど、本学カリキュラム内の習慣として意識させる。

2. 担任制度の改革

- ・担任教員によるマナー・チェックリストに基づく定期的な学生指導。
- ・ホーム・ルームを設定する。
- ・「担任会議」を導入し、綿密で定期的な意見交換を図る

3. 教職員のほか保護者も加えた授業研究会の実施。

- ・研究授業の実施
- ・保護者にも公開。
- ・研修会とともに保護者との懇親会の機会を作る。
- ・教員間で相互授業参観の実施。
- ・高等学校の授業改善案を参考にする。

次年度以降のFD活動として、次の事項のうち、「大乘寺などの体験合宿の実施」以外に、重点的に実施すると良いと思われる事項を3つ選んで下記の欄に番号を書いてください。

1. マナー・チェックリスト制の実施
2. ポイント制の実施
3. 授業時間の見直し
4. 受講人数の是正
5. フレッシュマンキャンプの活用と拡大化
6. 高校と連携した「礼節教育」の実施
7. 担任制度の改革
8. ホーム・ルームの実施
9. 教職員のほか保護者も加えた授業研究会の実施
10. その他

結 び

授業アンケート結果や本研修会のグループ議論を通し、本学教職員の学生に対する教育への真摯な態度と熱意が高く評価される。そして、教職員一人ひとりが模索しつつ、悩み苦しみながら、学生の学力の向上、人格形成のために全力を注いでいるのが現状である。しかし、このままでは不十分であることは事実であり、今回の研修会が、本学教職員にとって情報を共有化して一丸となって授業改善に向けて協働する契機となり、ここに挙げられた数々の具体的な改善行動を、**可能なことから順次、実行に移していきたい。**

タイム・スケジュールとしては、FD部会で議論した後、教授会に提案して実施することになる。

今後の学生指導並びに授業において各教職員による個人的改善努力は言うまでもないが、**教職員間の情報交換を始めとする協働によるFD活動が一層重要である。**

・教員の授業改善活動と 後期学生アンケートのまとめ

松井 良雄



教員の授業改善活動と 後期学生アンケートのまとめ

食物栄養学科 松井良雄

平成20年3月4日(火) 第三回金沢学院短期大学FD研修会 1

授業改善:教員向けアンケート

・教員アンケート実施

実施日:平成19年12月4日～21日

教員数:34名

(生デ16名、食栄6名、大学等4名、外部8名)

・アンケート項目(要約)

1. 平成19年度前期「学生アンケート」をふまえて、実施した改善策や工夫した事項
2. 授業改善に必要と思われる講習会や、その他の取り組みについての要望や意見
3. その他「学生アンケート」についての意見

平成20年3月4日(火) 第三回金沢学院短期大学FD研修会 2

1. 実施した改善策や工夫した事項(1)

授業方法(一般)

- ノートを取る時間を長くした。授業の進め方を遅くした。(7)
- 大きく明瞭な字を板書した。大きな声で講義した。(6)
- 資料を多く配布した(4) 教科書中心にした
- 記入式プリントを用いた。(3)
- 教科書を中心に重要な部分にアンダーラインを引かせる等。(3)
- ムダ話防止のため、座席指定、席を離す、机間巡視した。(3)

授業方法(色々な方策)

- パソコンのプレゼンやビデオを活用。(4) 板書の方が良い
- E-Learning(MoodleやHot Potatoes等)を活用した。
- 小單元ごとにまとめを行った。質問の時間を設定した。(2)
- 全受講生を対象に個別指導を行った。(5)
- 毎回学生に授業評価など記述させ、次の授業の参考にした。(2)

平成20年3月4日(火) 第三回金沢学院短期大学FD研修会 3

1. 実施した改善策や工夫した事項(2)

授業態度

- ムダ話や遅刻をしないように注意(遅刻は授業妨害)。(3)
- 勉学意欲を高め、地道に追求することの大切さを指導。(3)
- 礼儀について指導。モラルを引き出す工夫が必要。(2)
- 授業開始時には、あいさつ、起立・礼を実施した。(2)
- スーツ着用とし、緊張感を少しでも持たせた。

シラバス活用(改善策は少ない)

- 最初の講義の時のみ説明したが、その後は利用しなかった。
- 毎回出来るだけ授業のポイントやキーワードを示した。

その他

- 授業内容を平易にするか、諭しながらか、ロックアウトのような強行手段か、悩んでいる。(2)
- 学生参加型授業の可能性を探りたい。
- 大学全体が文系である広報でなく、総合大学であるとしてほしい。

平成20年3月4日(火) 第三回金沢学院短期大学FD研修会 4

2. 授業改善に必要と思われる取り組み

教員の連携

- 他の教員の授業を見学したい。事例報告を聞きたい。(4)
(学生の受講態度を把握し自分の授業の参考にする)
- 教員間の情報交換や連携を密にしたい。(2)
(個別でインフォーマルな情報交換を積極的に実施)
- E-Learningについて知りたい。E-Learningを活用する。(3)
- 他大学で行っている模範例があれば、取り組みの参考にしたい。

色々な意見

- 入学時の早い機会に受講態度を徹底して教える必要がある。(2)
- この学校での基礎的学力の基準をはっきり決めた方がよい。(2)
- 資格支援センターで検定の講習会を開催してほしい。
- 受講学生数に応じた教室などの教室環境整備を希望。

3. その他「学生アンケート」について(1)

アンケート項目

- 学生自身の授業中の態度(居眠り・私語など)を追加。(2)
- 学んでよかった、学びたかった、どのように学びたかったを追加。
「質問や発言しやすい雰囲気でしたか」はカットした方がよい。
- 授業内容の感想・要望等(裏面)の記入が少なくて残念。
- 講義向けのアンケートなので、実習授業には適さない。

アンケート実施

- 全教員が同じ態度で一丸となって対応する必要がある。(2)
- 全授業のアンケートは雑になるので、希望科目に絞ったら？
- 指示を聞かずに回答を始めてしまう学生も少なくない。
- 授業以外の時間にアンケートを実施したい。
- 担当教員が介在しないアンケート集計方法が必要。
- このアンケートの意義が今ひとつよくわからない。

3. その他「学生アンケート」について(2)

アンケート活用

アンケートは分かり易い。学生の思っていることが分かる。(2)自由設問(問17~20)や裏面の自由記述欄をもっと活用したい。回答者(学生)にアンケートの本質的な意義を理解させたい。昨年度までは自作した「学生による授業評価カード」を利用。全講義に対して実施することは魅力ある大学作りに極めて有効。

その他

「人気アンケート」「楽な授業がいい授業」という見解が多い。学生として最低限のマナー指導を全学あげての取り組みが必要。無責任なコメントが目につく。任意にでも有記名にすれば良い。質問項目をより具体的なものとし、数を増やしてほしい。

平成19年度後期 授業改善のための学生アンケート

・学生アンケート実施

実施日:平成20年1月16日~31日

科目数:98科目

回答数:2404枚

・アンケート集計処理

科目ごとの集計 担当教員に送付

短期大学全体(2404枚) 1年生科目(1574枚)

生活デザイン科目(857枚) 2年生科目(830枚)

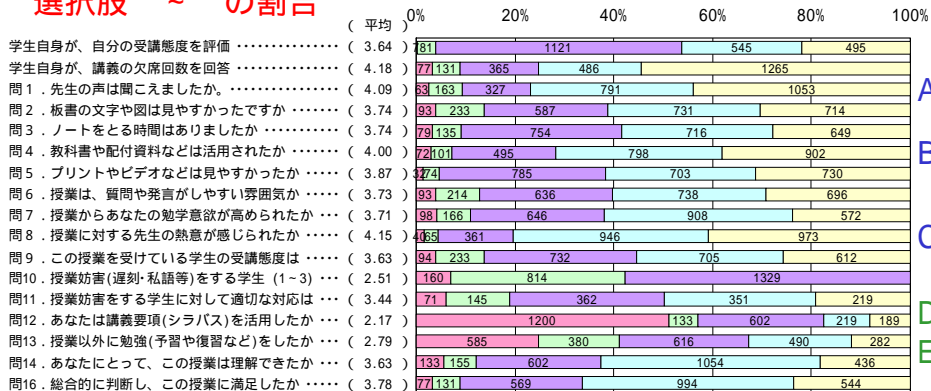
食物栄養科目(1662枚) 教養科目(401枚)

(両学科共通は115枚) 専門科目(2003枚)

短大全体のアンケート集計結果

選択肢 ~ の割合

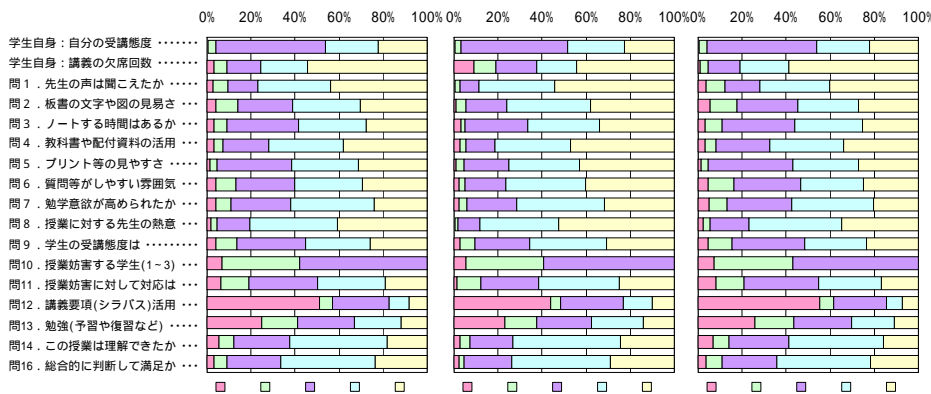
アンケート集計結果 (数値は票数)



評価(良) A: 先生の声 B: 教科書等の活用 C: 先生の熱意
 評価(悪) D: 講義要項(シラバス)の活用 E: 予習や復習など
 前期アンケートと同じ傾向

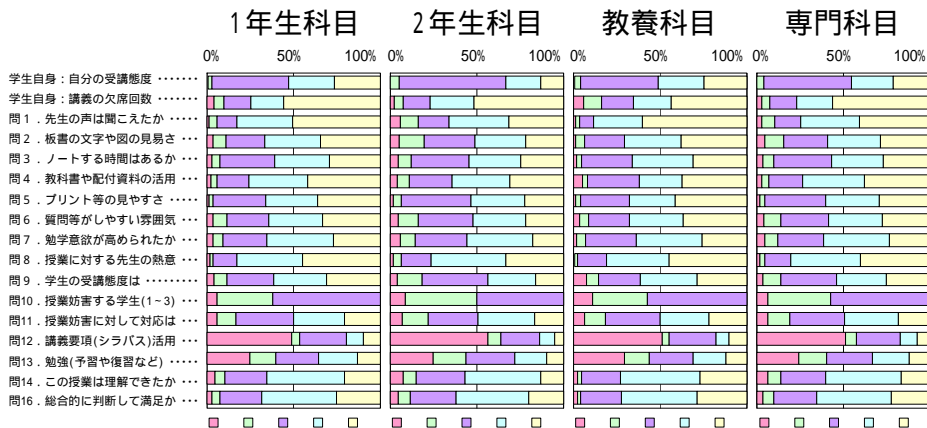
短大全体と学科ごとの比較

短期大学全体 生活デザイン学科 食物栄養学科



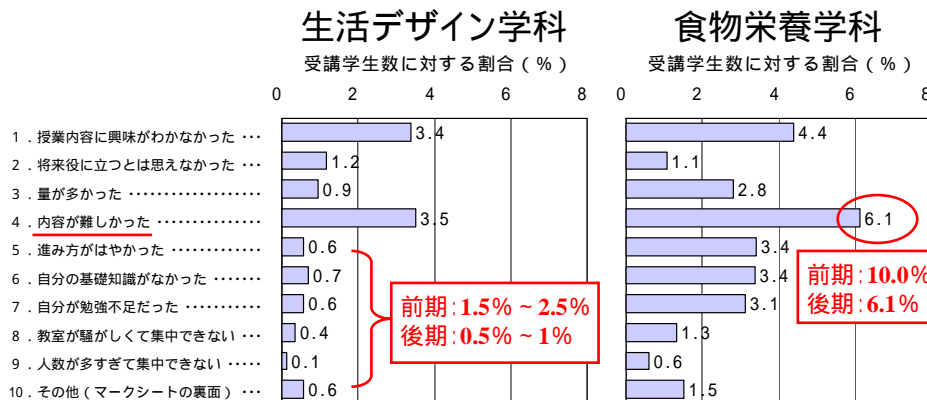
短大全体と学科ごとの比較では、傾向はほとんど同じ。
 両学科を比較すると、僅かに生活デザイン学科が好印象の回答
 前期アンケートと同じ傾向

1・2年生科目、教養科目、専門科目



科目の分類によらず、傾向はほとんど同じ。
 1年生科目の方が、2年生科目よりも僅かに好印象の回答
 教養科目の方が、専門科目より僅かに好印象の回答

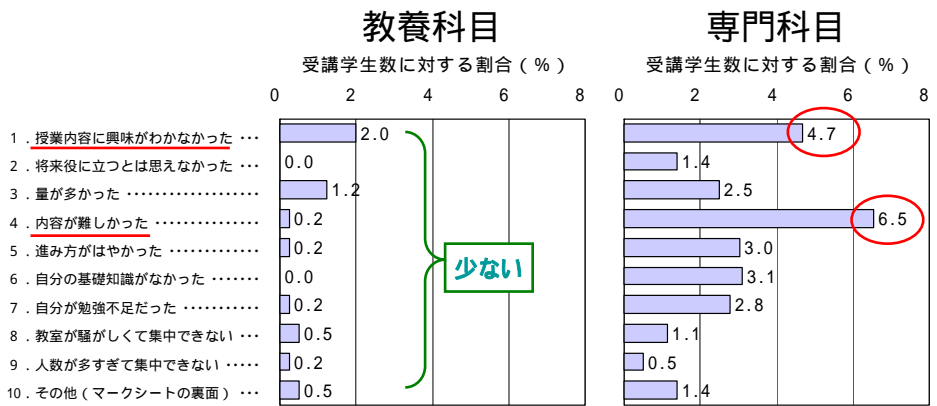
問15 (授業が理解できなかった理由)



(1) 食物栄養学科が僅かに授業の理解度が悪い
 前期アンケートと同じ傾向

(2) 前期アンケートに比べ、「理解できない」の回答数は約半数
 学生の理解が良い 教員による授業改善の成果

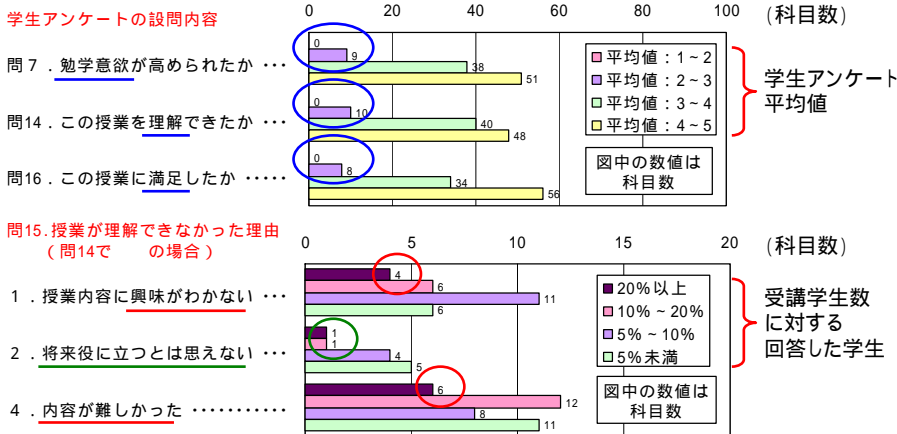
問15 (授業が理解できなかった理由)



(1) 教養科目の回答は少ない 理解できている

(2) 専門科目
 授業内容に興味がない 4.7%
 内容が難しかった 6.5%

科目数分布 (抜粋)



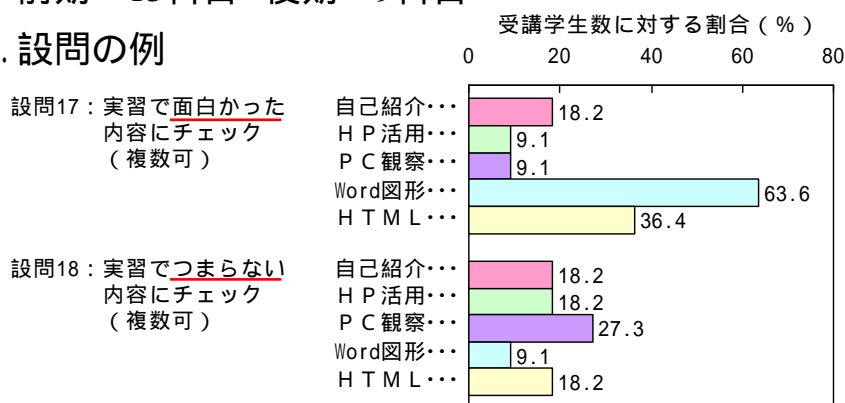
(1) 「勉強意欲」「理解」「満足」で、平均値が悪い科目はごく少ない
 (2) 受講学生の20%以上が「興味がない」「内容が難しい」と回答した科目は数科目
 (3) 「将来役に立つとは思えない」の回答は少ない

担当教員 自由設定設問(問17～問20)

1. 自由設定設問を利用した科目

前期 = 13科目 後期 = 9科目

2. 設問の例



3. 問17～問20や、裏面の自由記述欄を活用すると、学生の意見が得られる。(特に実習科目)

平成20年3月4日(火) 第三回金沢学院短期大学FD研修会 15

最後に

データ処理の問い合わせは松井までご連絡下さい。

「エンマ帳をExcelで作りたい」等のコンピュータ利用について、どのような内容でも構いませんので、質問があればお寄せ下さい。

今後も「授業改善のための学生アンケート」を実施する予定です。ご協力をお願い致します。

平成20年3月4日(火) 第三回金沢学院短期大学FD研修会 16

平成 20 年 3 月 4 日(火) 第三回金沢学院短期大学 FD 研修会
「教員の授業改善活動と後期学生アンケートのまとめ」報告書

食物栄養学科 松井良雄

1. はじめに

教員の授業改善活動のために、平成 19 年 12 月に実施した教員向けアンケートの集計報告と、平成 20 年 1 月に実施した後期学生アンケートのまとめを述べた。以下、FD 研修会当日の資料集に沿って報告する。

2. 教員の授業改善活動(12 頁)

授業改善活動に対する教員の意見を集約することを目的として、平成 19 年 12 月 4 日～21 日に教員アンケート実施した。対象は、授業担当教員 34 名(生活デザイン学科 16 名、食物栄養学科 6 名、大学等 4 名、外部 8 名)である。アンケート設問は以下の 3 項目とした。

- (1) 平成 19 年度前期に実施した「授業改善のための学生アンケート」の集計をふまえて、実施した(実施予定を含めて)改善や工夫した事項
- (2) 「授業における IT の活用」等、授業改善に必要と思われる講習会やその他の取り組みについて要望や意見
- (3) その他「授業改善のための学生アンケート」についての意見

以下 3.～5. に集約結果を掲載する。括弧()内の数値は同様な意見数を示している。

3. 設問 1: 実施した改善策や工夫した事項(13 頁)

授業方法(一般)

- ノートを取る時間を長くした。授業の進め方を遅くした。(7)
- 大きく明瞭な字を板書した。大きな声で講義した。(6)
- 資料を多く配布した(4) 教科書中心にした、との意見もある。
- 記入式プリントを用いた。(3)
- 教科書を中心にして、重要な部分にアンダーラインを引かせる等を行った。(3)
- ムダ話防止のため、座席指定、席を離す、机間巡視した。(3)

授業方法(色々な方策)

- パソコンのプレゼンやビデオを活用した。(4) 板書の方が良い、との意見もある。
- E-Learning(Moodle や Hot Potatoes 等)を活用した。
- 小单元ごとにまとめを行った。質問の時間を設定した。(2)
- 全受講生を対象に個別指導を行った。(5)
- 毎回学生に授業評価など記述させ、次の授業の参考にした。(2)

授業態度

ムダ話や遅刻をしないように注意した（遅刻は授業妨害である）。（3）

勉学意欲を高め、地道に追求することの大切さを指導した。（3）

礼儀について指導した。モラルを引き出す工夫が必要である。（2）

授業開始時には、あいさつ、起立・礼を実施した。（2）

スーツ着用とし、緊張感を少しでも持たせた。

シラバス活用（改善策は少ない）

最初の講義の時のみ説明したが、その後は利用しなかった。

毎回出来るだけ授業のポイントやキーワードを示した。

その他

授業内容を平易にするか、論しながらか、ロックアウトのような強行手段が悩んでいる。

（2）

学生参加型授業の可能性を探りたい。

大学全体が文系である広報でなく、総合大学であるとしてほしい。

4．設問2：授業改善に必要と思われる取り組み（14頁）

教員の連携

他の教員の授業を見学したい。事例報告を聞きたい。（4）

（学生の受講態度を把握し、自分の授業の参考にしたい。）

教員間の情報交換や連携を密にしたい。（2）

（個別でインフォーマルな情報交換を積極的に実施したい。）

E-Learningについて知りたい。E-Learningを活用したい。（3）

他大学で行っている模範例があれば、取り組みの参考にしたい。

色々な意見

入学時の早い機会に、受講態度を徹底して教える必要がある。（2）

この学校での基礎的学力の基準をはっきり決めた方が良い。（2）

資格支援センターで検定の講習会を開催してほしい。

受講学生数に応じた教室などの教室環境整備を希望する。

5．設問3：その他「学生アンケート」について（14-15頁）

アンケート項目

学生自身の授業中の態度（居眠り・私語など）を追加してほしい。（2）

学んでよかった、学びたかった、どのように学びたかったを追加してほしい。

「質問や発言しやすい雰囲気でしたか」はカットした方がよい。

授業内容の感想・要望等（裏面）の記入が少なく残念である。

講義向けのアンケートなので、実習授業には適さない。

アンケート実施

全教員が同じ態度で一丸となって対応する必要がある。(2)
全授業のアンケートは雑になるので、希望科目に絞った方が良い。
指示を聞かずに回答を始めてしまう学生も少なくない。
授業以外の時間にアンケートを実施したい。
担当教員が介在しないアンケート集計方法が必要である。
このアンケートの意義が今ひとつよくわからない。

アンケート活用

アンケートは分かり易い。学生の思っていることが分かる。(2)
自由設問(問17~20)や裏面の自由記述欄をもっと活用したい。
回答者(学生)にアンケートの本質的な意義を理解させたい。
昨年度までは自作した「学生による授業評価カード」を利用していた。
全講義に対して実施することは、魅力ある大学作りに極めて有効である。

その他

「人気アンケート」「楽な授業がいい授業」という見解が多い。
学生として最低限のマナー指導を、全学あげての取り組みが必要である。
無責任なコメントが目につく。任意にでも有記名にすれば良い。
質問項目をより具体的なものとし、数を増やしてほしい。

6. 平成19年度後期 授業改善のための学生アンケート(15頁)

授業改善のための学生アンケートについて、初めにアンケート処理の流れと、対象科目数(98科目)、アンケート総数(2404枚)を述べ、配付資料の種類を説明した。配布資料は、各教員に事前配付として、担当科目のマークシート用紙と集計結果。研修会当日の配布資料としては、短大全科目、生活デザイン学科科目、食物栄養学科科目、1年生科目、2年生科目、教養科目、専門科目の各集計結果、そして、短大全体の科目数分布の計8枚である。当日配布の8枚は、資料集19~26頁に綴じてある。以下7.~12.に集約結果を要約する。

7. 短大全体のアンケート集計結果(16頁)

評価が良い項目は、先生の声、教科書や資料の活用、先生の熱意であり、評価が悪い項目は、講義要項(シラバス)の活用、予習や復習などの実行である。この結果は、前期アンケートと同じ傾向であった。

8. 短大全体と学科ごとの比較(16頁)

短大全体と学科ごとの比較では、傾向はほとんど同じであった。両学科を比較すると、僅かに生活デザイン学科が好印象の回答を得ており、前期アンケートと同じ傾向である。

9. 1・2年生科目、教養科目、専門科目の比較(17頁)

科目の分類によらず、傾向はほとんど同じであった。1年生科目の方が2年生科目よりも僅かに好印象の回答であり、また、教養科目の方が専門科目より僅かに好印象の回答であった。

10. 問15(授業が理解できなかった理由)(17-18頁)

食物栄養学科が僅かに授業の理解度が悪い結果が示され、前期アンケートと同じ傾向であった。但し、前期アンケートに比べて「理解できない」の回答数は約半数であり、教員による授業改善の成果が実を結んだと思われる。また、教養科目の回答は少なく、学生が理解できていると思われる。一方、専門科目では、「授業内容に興味がない」が4.7%、「内容が難しかった」が6.5%の回答であった。

11. 短期大学全体の科目数分布(抜粋)(18頁)

「勉強意欲」「理解」「満足」で平均値が悪い科目はごく少ない。しかし、受講学生の20%以上が「興味がない」「内容が難しい」と回答した科目は数科目ある。一方、「将来役に立つとは思えない」の回答は少なく、学生は授業の重要性を十分に理解しているものと思われる。

12. 担当教員の自由設定設問(問17~問20)(19頁)

自由設定設問を利用した科目は、前期13科目、後期9科目で、残念ながら科目数は減少していた。自由設定設問の例が示され、問17~問20や、裏面の自由記述欄を活用すると、学生の意見が得られる(特に実習科目)との説明が述べられた。

13. 最後に(19頁)

データ処理の問い合わせ、教員のコンピュータ利用について、学生アンケートの協力依頼が、松井FD委員より述べられた。

(松井 良雄)



・金沢学院東高等学校公開授業 参加報告

小林 淳一



Faculty

金沢学院東高等学校公開授業 の参観報告

Development

生活デザイン学科 小林 淳一

1

Faculty

参観の基礎データ

Development

1. 目的

- 本参観は、金沢学院東高等学校(以下、「東高校」という)の授業を、特に生徒の実態に着目して観察・分析し、その結果を本学の今後の教育改善に反映させることを目的とする。

2. 日程

参観：平成19年11月28日(水)第3, 4時限(東高校公開授業)

会議：平成19年12月6日(木)16:40～18:00(短大第2会議室)

2

3. 参観クラス

- 1年生
1年6組(英語)・ 1年9組(美術)・ 1年10組(情報A)
- 2年生
2年8組(理科総合B)
- 3年生
3年1組(数学B・小論文)・ 3年2組(小論文・数学B)・ 3年5組(現代文)
3年7組(国語表現)・ 3年8組(古典読解)・ 3年9組(現代文・英語R)
- また、生徒の実態をより詳細に把握するため、休み時間の教室、廊下、図書館などの様子をFD委員が個別に観察した。

3

4. 東高校から本学への入学者数(過去4年分)

	エントリー	推薦入学	一般A	一般B	一般C	入学者数	総入学者数	割合(%)
平成16年度	13	5	1	3	0	22	152	15
平成17年度	24	8	6	1	0	39	178	22
平成18年度	13	3	2	1	1	20	144	14
平成19年度	33	2	1	0	0	36	166	22

4

参観記録

1. 生徒の授業態度

1) クラス編成上の特徴

- 学力レベルの近い学友と同クラスで学ぶ環境

関連: 「 - 2 本学入学後の東高校出身学生への対応」

2) 授業中における教師との関係性

- 教師・生徒関係が友達感覚なクラスがあり、その関係性のプラスとマイナスが確認された。
- 一部のクラスでは、教師と1,2名の生徒との双方向授業になっていた。
- 授業前に教師と一部生徒の私語が多いと、時間全体の緊張感や集中力の維持が困難になっていた。

関連: 「 - 3 信頼関係の構築と権威の維持」

5

3) 学習意欲

(肯定的場面)

- 特別進学クラス(1,3年生)の学習意欲は非常に高かった。
- 美文クラスの生徒は参観授業の内容と自分の興味・関心が一致しており熱心な態度であった。

(否定的場面)

- 一部の学生の学習意欲が低い。
- 授業開始と同時に机に伏してしまう生徒もいた。

6

4) 板書に対するノートの取り方

- 穴埋め方式ワークシート活用におけるメリットとデメリット。
- クラス毎にノートの取り方に対する意欲差が大きい。

関連: 「 - 2 教師の授業について」

5) 逸脱行為の有無

- 忘れ物の実態と教師の対処方法
- 授業妨害(私語・居眠り・その他)の程度と教師の対応方法

7

2. 教師の授業について

- 1) 授業の工夫と教材研究
- 2) 教育に対する熱意・姿勢
- 3) 指導上の特徴

3. 学内設備や雰囲気について

- 1) 全ての教室に「創造」の額縁が設置。
- 2) 携帯電話に対する校則の明示。
- 3) 服装や持ち物
- 4) 挨拶

8

考察

1. 東高校生の実態と本学入学までの関係性

- 東高校生も学年が上がるにつれて集中力が散漫になり、学業に対する真摯な姿勢が欠如していくように思われた。つまり、入学時(一年生)から徹底した指導を継続することの必要性と困難さを再確認した参観であった。
- 時期的に考慮すると、東高校特別推薦などにより進学希望者の多くが合格通知を手に入れていることが考えられるため、センター入試等を視野に入れた特別進学クラスの生徒以外は、目標を失っていたのかもしれない。こうした状況で約半年間過ごした高校生が、短期大学入学と同時に自らの意志で再び気を引き締められるかは疑問である。
- これらの点は、「推薦合格者の入学時までの課題をどう与えるか」や、「フレッシュマンキャンプでどのような指導をするか」という問題と関連して考究すべきである。

9

2. 本学入学後の東高校出身学生への対応

- 進学総合クラスの中でも、特定のクラスの生徒集団が本学入学予定者になるという話を伺った。これは第二回FD研修会で議題に上がった、「東高校出身者の気の緩みと入学時からの過度の仲間意識」の一因として検討すべきである。
- 学力レベルでクラス編成をする東高校進学総合クラスの実態を考慮すると、必然的に本学入学生は同じクラスで学ぶことになり、日々のつながりが密になる。したがって入学以前から生徒集団の関係が深いと同時に、様々な方法で情報収集し、本学に対する「慣れ」を抱いて入学することになる。
- こうした特徴の学生集団をいかにして指導し、他高校出身学生を巻き込んで教育育てていくかが今後の課題である。

10

3. 信頼関係の構築と権威の維持

- 学年を問わず、全体的に先生と生徒がフレンドリーな関係で実施されている授業が多かったが、この件は良い側面と悪い側面がある。フレンドリーな雰囲気では生徒が授業に興味を持てば良いが、学生生活全般にわたって不真面目な態度をもたらすことが危惧される。逆の場合は、生徒の興味が無くなり授業を無視する学生が増えることも生じる。しかし、授業を通して「礼節」につながる教育効果も期待される。
- この問題は難しいものであり、授業内容、先生の性格、生徒の能力に応じて、多くの科目で色々な形態を振り分ける必要がある。

11

4. 結語

- 今回のFD委員会による公開授業参観は初の試みであり、この成果が直ちに本学学生の資質能力向上や、礼節を培うプログラム開発に資するものであるとは言い難い。しかしながら、学生の実態を詳細に把握するための基礎作業として、数多くの進学予定者が学ぶ東高校の実態を短時間ではあるが参観できたことは、極めて有意義であった。
- 今後は東高校との連携を一層深め、情報交換を図り、社会のニーズに合致した礼節ある学生を養成し輩出することを共通の教育理念として掲げていることを鑑み、ともに協力して努力したい。

12

質疑応答・意見・感想の要約

蔵角教員...(信頼関係と権威関係についての意見)

われわれ教員は、学生に迎合をしているようなところがあるが、それではいけない。自分で確信を持って教えなければならない。平成19年度の入学式で学生が騒がしかった件については、5月、6月まで言われた。騒がしい学生は、廊下でも教室でも静めなければならない。入学した時点で学生に教えなければ、手遅れになる。この問題に関しては、個人だけで適当にすれば良いというものではない。我々は、迎合ではなく、真の授業を行わなければならない。教員全体が協同で実施しなければならない。

小林教員...(蔵角教員の意見に対する返答)

今日的な学生像の把握と、本学の学生がどのような意識や考えを抱いているか深く理解することが必要と思われる。例えば、東高校の場面でも申し上げたように、ノートのとりかたや、メモのとりかたを全く知らない学生が本学にもたくさんいる。そういう学生集団に対しては、いまさらながら受講方法を教授しなければいけない。

また、入学した時点では遅い事柄もある。ミクシに代表されるインターネット利用によって、授業内容や教員個々の特徴など多くの情報を、入学以前から既に得ている。厳しい先生や優しい先生、時には過去の試験問題も情報交換されている。当然ながらそれを取り締まるのは不可能であるため、私たちはいかに毅然と対応するか、また日々の教育活動に真摯に取り組むかが重要となる。

カニンガム教員...(学生のインターネット利用について意見)

学生はミクシについての話題が多く、授業中もよくその姿が見られる。ミクシで、いろいろな人とコミュニケーションをとっている。外に情報が漏れるのが当然だと思って授業をしなければならない。それぞれの先生のテスト内容なども情報として流れてしまう。学生たちは、入学するまでにミクシなどで書き込みをし、情報交換を行っている。



・ 金沢学院東高等学校の生徒指導
- 学習、生活、進路などについて -

東高校教頭 島崎 芳夫
東高校教頭 木谷 辰夫



木谷教頭「生活指導と授業態度について」(現状報告)

東高校出身者の短期大学1年生については、おしゃべりし過ぎの傾向があるが、現東高校3年生、2年生については随分良くなっている。マナー・礼節を重んじるよう、教室や体育館などのいたるところに「笑顔であいさつ 感謝の心と礼節ある行動 頑張る金沢東高校生」の貼り紙をし、日ごろより注意を促している。その成果として、大半の生徒はあいさつをするようになった。また、朝8時～8時15分まで、校長・教頭が校門に立ち、あいさつをしている。

あいさつがコミュニケーションの基本ととらえ、生徒が来て良かったと思える学校を目指している。生徒が来て良かったと思える学校にするには、対話とコミュニケーション、そして先生方との関係が重要であると思っている。生徒は、口うるさいと感じても、「教えてもらった」、「無視されていない」という感覚が、学校に対する満足度の向上につながる。「無視された」という感覚を持っている生徒は、満足度が低い。

学習の方は、進学特進クラスの生徒5名ほどが国立大学へ進学する。進学総合・スポーツの生徒が学院短大へ進学する。短大へ進学する生徒は、短大の各学科・コースに興味のある者が行くが、私語が多い、化粧をするなどの生徒がいることは否定できない。

そこで、現在は授業を受ける際の心得(礼儀作法)として、次のような方法を取り、先生方にも徹底するよう協力してもらっている。

- ・ 授業を受ける際は、始まる前に教材を準備し、席に着く。授業開始・終了時には、代議委員が号令をかけ「あいさつ」をする。あいさつをしなかったり、違反をしたときは、チェックシート(生徒指導課で作成したもの)に記入され、呼び出しがかかる。罰則を設けている。
- ・ 授業妨害に関しては、居眠り、私語、暴言をチェックしている。暴言については、場合により停学処分となる。居眠りや私語については、授業担当者が注意した回数を出席簿に記入し、回数によって、原稿用紙半分くらいの反省文を書かせる。また、担任・学年主任・生徒指導・教頭・校長から注意を受けることになっている。
- ・ 携帯電話に関しては、1回鳴るごとに取り上げる。拒絶した場合は、その時点では無理に取り上げたりせず、そのままにしておく。その後、生徒指導部が学生を呼び出し、反省文を書かせる。素直に従わない場合は1回目から反省文を書かせるが、従えば3回目からとしている。基本的に、保護者への連絡はしない。保護者へ連絡をすることで、生徒の気持ちを逆なでしてしまう(生徒が根に持つ)ことと、保護者に頼ることで、学校側(教員)の弱さを見せることになってしまうから。
- ・ 出席簿には、寝る、私語、教材忘れ、化粧、立ち歩き、教員への不適切な言動などの12項目があり、注意した回数を記入することになっている。リストにチェックを入れる際には、必ず口頭で指導(注意)することと、教員によって違いが出ないように、全先生が注意することを徹底し

てもらっている。生徒が無視した場合は、別指導となる。居眠りをしている生徒は、無理に起こすことはせず、リストにチェックを入れる。あくまで行き過ぎがないように注意している。月日限、私語回などのように記録を残しておけば、何かあった時に分かりやすい。出来る限り保護者は巻き込まない。

以上、あいさつ、礼節については、ホーム・ルーム活動や朝の出席点検などで確認し、担任制により、きめ細やかな指導を行っている。ただし、チェックリストに記録する方法は、少人数のクラスだから出来ることである。東高生は、現在、少ないクラスで12名、多くても34名である。この方法を使う際、生徒を名指しして注意することが重要。名指しをしないと効果が薄れる。授業を座席指定とし、名指しできる少人数クラスでは、効果があると思われる。



島崎教頭「進路について」(現状報告)

金沢学院東高校へ入学する生徒について...中学時代には、目立たず、叱られたことはあっても、構ってもらえなかったような生徒が多い。進学特別クラスの生徒でも、それ程目立って成績が良かったわけではない。東高校では、このような生徒を生活指導、進路指導の教員始め、先生方が寄ってたかってかまうようにしている。3年生に行ったアンケート調査によると、進路に関する満足度は、「大変満足」と「満足」で85%であった。

進路指導について...進路については、4月の入学時から、年間行事予定とともに生徒に渡し、学年ごとに、ホーム・ルームや総合学習などを使って、指導している。進学に関しては、全体へのガイダンスのほか、相談にきた生徒に対し、学年の先生始め、石田校長が直接面接(校長面接)をするなどし、対応している。進学先には大学、短大、専門学校があるが、専門学校へ行くなら短大へ、と1年時から話している。石川県全体の傾向としても、ここ数年、専門学校よりも短大への進学を勧める高校が増えてきているように感じられる。生徒に専門学校よりも短大を勧める際には、その理由として、準学士の称号が授与されることや、生涯賃金の違いなどを挙げている。生徒には、「高校卒業後、2年間くらいは最低限勉強をしよう」と話している。また、専門学校に関しては、トラブルが発生していることから、同じ2年間であれば、短大への進学を勧めている。調理・理容美容・看護系は、専門学校になるが、例えば、コンピュータ関連の専門学校へ行きたいという生徒に対しては、短大で学べる内容なので、短大を勧めている。その効果として、本年度の3年生(231名)が1年生のときに取った調査では、専門学校への進学希望者は62名、短大は17名であったが、現時点では専門学校33名、短大32名である。専門学校進学者の3分の1が理容(その他は、看護、スポーツ、金沢産業技術専門学校など)である。東高校と同レベルの県立高校であれば、専門学校よりも短大への進学を勧めていると思われる。後悔しない進路選択を願い、指導している。

学校側で解決できない問題として...保護者の経済状況、母子家庭が増えている。県内から入学してくる母子家庭は、県から補助金がでる。3年生28名、2年生35名、現在の1年生は277名のうち、47名が補助を受けている。短大・大学への進学に影響を及ぼす虞は否定できない。

入学ボーダーとの関連...東高校に入学した生徒に対しては、学校を挙げて短大ぐらいは行こうと言っている。基礎学力に関しては、食栄に入学した者に関して、厳しい状況がみられるようだが、少しずつは上がってきていると思う。東高校では、読み・書き・の国語に重点をおいている。食栄で必要とされている生物・化学も徐々にではあるが、底上げを図っている。

学校に出てこれなくなる学生について...人間関係の構築に問題を抱え、学校へ行けなくなるケースがみられる。特に、食栄の場合、グループワークが多いので、人間関係のつまずきが学力低下を引き起こし、学校へ行けなくなるという現象へ移行する。中学時代まで目立たなかった生徒に、高校では光を当て、元気にしているつもりだが、勉強が出来て、ある程度強い子でも、がんがん言われると落ち込んでしまうようだ。生徒自身も強くなって乗り越えなくてはならない。



質疑応答

二階堂教員(感想)

どこも大変だと思った。人間的に弱く、グループ化しやすい。自分の劣等感による弱さを感じられる。授業では、実験などの際に、簡単な比例計算などができず、グループの中の誰かがやっているのを見ている。純朴な所は好感が持てる。人の目を気にするところがある。

岡島教員 木谷教頭への質問

チェックリストによって、1学年で何人ぐらいの生徒が指導されるのか。本学でもチェックリストを作るかと迷っているが、大学生になってまで、高校と同じようにすべきだと思われるか。

木谷教頭の回答

指導する学生は1日5~6名。遅刻は4回以上で反省文だが、以前よりは減少した。反省文は先生方のところを回る。大学では、授業を少人数にしたり、座席指定することで名指し出来るようにするなどから始めたらいいか。それでも効果がない場合に、チェックリストを使用してはどうか。

岡島教員 木谷教頭への質問

基礎学力(読み・書き・算数・生物)については、高校との連携が必要だと思う。読み・書きなどの国語に力を入れているとのことだが、具体的にはどんなことをしているのか。

木谷教頭の回答

毎朝15分の朝読書の時間を設けている。漢字検定も年2回挑戦している。最高で2級の受験者がいる。国語こそ、思考そのものだと考えている。

藏角教員 木谷教頭への質問

短大では毎年6月に北陸三県私立短期大学体育大会がある。しかし、近年はスポーツをする学生が減少している。バレーボール、バスケットボールのほか、多用なスポーツをする学生を本学に入学させて欲しい。高校時代に正選手でなくても、入賞できる可能性はある。楽しく力を合わせて競技をし、スポーツを通して自信をつけてもらいたい。この体育大会では、3位以上の成績を修めると、学長褒賞が授与され、就職活動の際にも役立つ。

木谷教頭の回答

以前は、東高校が生徒募集をする際、中学校側に対して「勉強の出来る生徒をお願いします」と言っていたが、最近では部活動の出来る生徒をお願いしており、部活動関係での募集で成功している。それは、部活の出来る生徒の中に成績の良い生徒もいるからである。成績の良い生徒が入学すれば、類は友を呼び、他の優秀な生徒も入学してくる。長期的なスタンスでは、国立大学を目

指す生徒募集をしたいと考えている。生徒には自信を持たせたい。そのためには、罰則ばかりではなく、冷たくない厳しさと、甘くない優しさで指導していきたい。その点で最大限の協力をさせていただきたい。

山岸教員(感想)

東高校からの美術科からの入学生は、過去に100名ほどいる。その中には、優れた才能を持った生徒もいる。コースの名称を現在の「美術コース」からアート&デザインなど、生徒たちが入り込みやすい名称にすれば、イメージも今までより良くなるのではないか。金沢という土地を背景に、才能ある東高の美術学生を育てるためには、先生方のご尽力が必要である。

吉田貞介教員 島崎教頭への質問

以前所属していた大学の美術文化学部では、7年一貫教育ということで、月1回、高校、大学の教員が研究委員会を開いていた。大学の教員が高校へ行って授業をすることもあった。生徒の質を高めるには、高校・大学が相互に乗り入れて一助になることが重要である。大学から高校へのサービスとして、エントリー入試で入学が決まった学生に対して、課題を与え、プレ指導をするなどし、早々に進路が決定した学生が浮ついてしまうのを防ぐと同時に、これからの目的意識をしっかりと持たせるなどの事前指導を行うシステムを、担当者を決めて実施するべきではないか。事前指導という特典があれば、現在のエントリー入学者33名より増えるのではないか。今後は、生徒を介在しながら、具体的に行っていく方法を考えなければならないのではないか。

島崎教頭の回答

新年度のエントリー入試は、入学が早い段階で決定してしまうことを懸念し、今までは8月に実施されていたものを、10月に実施する予定である。美術関係については、大学・短大から課題をいただけるのは良いのではないか。東高校では、エントリーや推薦で合格した生徒には、高校での勉強はしっかりするように指導している。

また、エントリー・推薦とも、普段の成績が大きく関係しているので、普段の勉強が大切だという意識を持っている。したがって、東高校の場合、早くに合格が決まったから勉強をおろそかにすることは、少ないのではないか。生徒が興味を持って進学するのだから、大学・短大から課題を出していただき、それが単位の一部になるとしたら、生徒の励みになるのではないか。



.第 3 回 F D 研修会当日アンケートの まとめ

松井 良雄



平成20年3月4日(火) 第3回金沢学院短期大学FD研修会

研修会当日アンケートのまとめ

1. アンケート内容と集計結果

次年度以降のFD活動として、次の事項のうち「大乘寺などの体験合宿の実施」以外に、重点的に実施すると良いと思われる事項を3つ選んで、下記の欄に番号を書いてください。

アンケート項目	選択数					分析結果	
	第一	第二	第三	総数	順位	重度	順位
1. マナーチェックリスト制の実施	7	0	4	11	4	25	3
2. ポイント制の実施	1	4	1	6	8	12	7
3. 授業時間の見直し	12	1	0	13	1	38	1
4. 受講人数の是正	3	8	1	12	3	26	2
5. フレッシュマンキャンプの活用と拡大化	2	5	2	9	5	18	4
6. 高校と連携した「礼節教育」の実施	0	4	9	13	1	17	5
7. 担任制度の改革	1	5	2	8	6	15	6
8. ホーム・ルームの実施	1	2	5	8	6	12	8
9. 教職員のほか保護者も加えた授業研究会の実施	2	0	2	4	9	8	9
10. その他	0	0	4	4	9	4	10
合計	29	29	30	88			

(重度 = 第一選択 × 3 + 第二選択 × 2 + 第三選択 × 1)

2. その他の回答

- (1) マナー・礼節に関して、教職員各自で基準が異なっているので、学生に対するマナー・礼節の指導は難しいのではないかとと思われる。
- (2) 基礎学力の向上
- (3) 学生ばかりでなく教職員が率先して挨拶をするような気持ちのよい環境を作り、高校と連携した「礼節教育」の実施と併せて効果を狙うべきではないでしょうか。こちらから挨拶しても無視するような方もいらっしゃいます。
- (4) パウダールームの充実

3. 順位ソート

票数順位	
1	3. 授業時間の見直し
1	6. 高校と連携した「礼節教育」の実施
3	4. 受講人数の是正
4	1. マナーチェックリスト制の実施
5	5. フレッシュマンキャンプの活用と拡大化
6	7. 担任制度の改革
6	8. ホーム・ルームの実施
8	2. ポイント制の実施
9	9. 教職員のほか保護者も加えた授業研究会の実施

重度順位	
1	3. 授業時間の見直し
2	4. 受講人数の是正
3	1. マナーチェックリスト制の実施
4	5. フレッシュマンキャンプの活用と拡大化
5	6. 高校と連携した「礼節教育」の実施
6	7. 担任制度の改革
7	2. ポイント制の実施
8	8. ホーム・ルームの実施
9	9. 教職員のほか保護者も加えた授業研究会の実施

(松井 良雄)

総括

第 3 回金沢学院短期大学 F D 研修会は、次に挙げる 4 部構成で実施された。すなわち、第 1 部、第 2 回 F D 研修会のまとめ（報告者：岡島厚 F D 委員長）、第 2 部、教員の授業改善活動と後期学生アンケートのまとめ（報告者：松井良雄 F D 委員）、第 3 部、金沢学院東高等学校公開授業参加報告（報告者：小林淳一 F D 委員）、第 4 部、金沢学院東高等学校の生徒指導 - 学習、生活、進路などについて - （報告者：島崎芳夫金沢学院東高校教頭・木谷辰夫金沢学院東高校教頭）である。

まず、第 1 部では、岡島 F D 委員長によって第 2 回 F D 研修会（2007 年 9 月実施）の討論内容のまとめが、今日の大学を取り巻く社会情勢の実態把握の基礎データとともに報告された。主として「"ポストイット"を用いた本学の授業方法の改善方法の討論」に焦点を当て、各グループにおける討議概要の具体的なまとめと今後の展望が報告された。

次に、第 2 部では、授業評価アンケートに対する教員の改善策の概要について、松井 F D 委員から報告がなされた。また今回は、データ解釈ならびに評価内容の議論だけではなく、データ処理の問い合わせや教員のコンピュータ利用など、学生アンケートの協力依頼も議題として取り上げられた。このような動向は、全学的かつ組織的な教育改善が定着するきっかけとなるものであり、今後の F D 研修活動を継続していく上で有益かつ貴重な機会であった。

第 3 部は、今回の研修会に先立って 2007 年 11 月に実施された、金沢学院東高等学校公開授業参加報告が小林 F D 委員より行われた。本学への進学者数が最も多い金沢学院東高校生の高校生活の実情把握を素材として、今後の学生指導に対する全学的な情報共有・意思統一を図る契機となる議論がなされた。

最後に第 4 部は、第 3 部の報告を受けて金沢学院東高等学校の生徒指導の実情が、島崎芳夫金沢学院東高校教頭ならびに木谷辰夫金沢学院東高校教頭から報告された。学習・生活・進路の 3 項目に焦点を当てながら、高校と短大のさらなる連携の可能性を探ると共に、質疑応答では参加者がそれぞれの立場から積極的な意見交換を行った。

今回で 3 回目を数える短大 F D 研修会を総括すると、「定着化と恒常化」が進展したと評価する。すなわち、F D 活動の全学的な理解深長や教職員の積極的な情報交換の発展、さらには前回の「ポストイットを用いたグループ討議」で議論された内容の実現への取り組み姿勢など、組織改革には一定の効果があったと評価できる。今回は短大教職員だけではなく、高校との連携が実現したことからも、F D 研修会で提案された内容が本学の教育改善に着実に導入されており、研修会の意義と組織内での定着・発展が垣間見られる。

他にも具体的に例を挙げると、金沢学院東高等学校公開授業参加報告の際、質疑で挙げられた「メモを取れない学生が多い」ことに関しては、2008 年度プレゼミナール A における「短期大学での学び方(講師:小林 F D 委員)」で指導内容に取り上げられた。また、第 2 回 F D 研修会で挙げられた体験学習の実施に関しては、ワーキンググループを設立して大乘寺座禅研修を 2008 年 8 月 4 日に実施した。これら諸活動からも、F D 研修活動の成果が教育実践場面に速やかに反映したと言えるであろう。

その一方で、定着化はマンネリ化につながる恐れがある。F D 活動は、都合の付く意識の高い一部の人間が取り組めば良いという性格の活動ではない。本学教職員全てが情報を共有し、意見を交換し合うことで、全学的・組織的な教育改善が実現することを理解しなければならない。

したがって今後も、準備段階から条件整備に専心し、教職員が確実に参加できるように配慮することが肝要である。それは同時に、教職員個々人の教育改善に対する高い意識も必要であろう。大学設置基準の一部を改正する省令により、大学教員の研修が義務化されたことはきっかけに過ぎない。日々変容する社会のニーズを的確に把握し、不易と流行を見極め、それぞれの専門性や職能を発揮し、協働して短大を創造する意識が一層重要である。

(小林 淳一)